四日市STYLE
YOKKAICHI-CITY
四日市の魅力発見

受け継がれる 伝統と技術

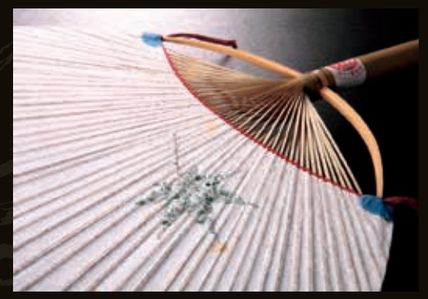
日永うちわ

300年の伝統を守る「誇り」

東海道の間の宿「日永」で盛んに作られていた日永うちわ。丸い竹を使った「丸柄」が特徴で、手によくなじみ、女竹を細かく割いて編んでいるため、弓のようにしなります。

江戸時代から伊勢参りの土産物の一つとして旅人たちに人気を博しましたが、今では製造しているのは１軒のみ。

伝統を絶やすわけにはいかないとの強い思いを一本一本のうちわに込め、やわらかで質の高い「本物の風」を作り続けています。



日永うちわの製作技術
（市指定無形文化財）

四日市萬古焼

伝統・技術の継承と時代に即した展開

桑名の豪商、沼波弄山（ぬなみろうざん）が江戸中期に窯を開いたのが始まりとされ、後世に受け継がれ永続することを願い、「萬古」または「萬古不易」の印を押したのが名前の由来といわれています。

紫泥の急須や耐熱性に優れた土鍋が代表的ですが、食器、酒器、花器、置物など、製品はさまざまです。

昭和54年に当時の通商産業大臣から伝統的工芸品の指定を受け、また、多くの職人が伝統工芸士の認定を受けるなど、その伝統・技術は脈々と受け継がれています。

一方、現代のライフスタイルに合う、デザイン性と機能性に優れたテーブルウェアも次々と提案され、その市場は広がっています。

この伝統マークを使った伝統証紙が貼られている工芸品は、産地組合等が実施する検査に合格した経済産業大臣指定伝統的工芸品です。

経済産業大臣指定伝統的工芸品
承認番号
27-233